

玉野競輪場施設整備基本計画

平成 30 年 3 月

玉 野 市

産業振興部競輪事業課

目 次

1. 競輪事業の現状把握	
(1) 収支状況の分析と課題の抽出	1
(2) 施設に関する現状整理と課題の抽出	11
(3) サービスに関する現状と課題	16
(4) 施設整備を進めるにあたっての課題整理	17
2. 収支見通しの作成	
(1) 売上見通しの検討	19
(2) 支出見通しの検討	20
(3) 収支見通しの検討	20
3. 施設整備方針の検討	
(1) 施設整備コンセプトの検討	22
(2) 施設整備方針の検討	23
4. 施設整備計画の策定	
(1) 必要となる施設整備の検討	28
(2) 想定事業費とスケジュールの検討	38

1.競輪事業の現状把握

本章では、収支状況の分析を行い、施設に関する現状を把握することによって、玉野競輪における課題を抽出します。

(1)収支状況の分析と課題の抽出

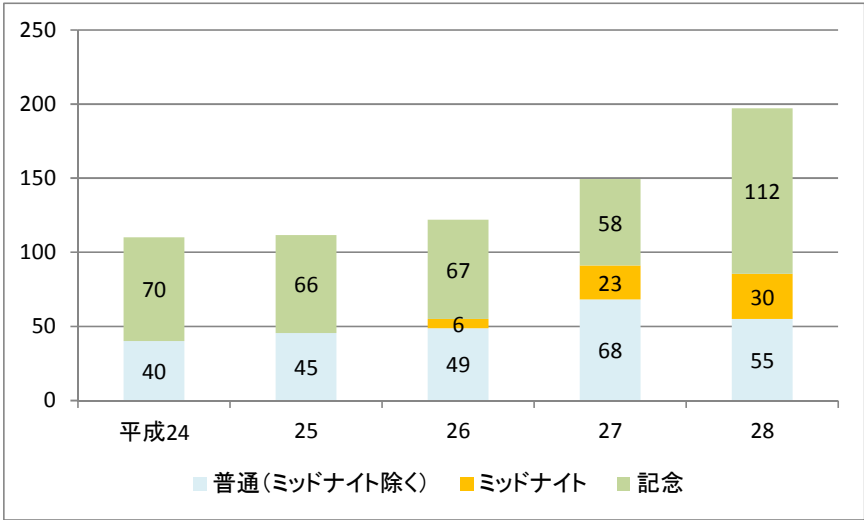
本項では玉野競輪の収支状況とその要因について明らかにして、今後の課題について抽出していきます。

①売上と収支の状況

玉野競輪の売り上げの傾向についてみると、記念競輪は横ばいから減少傾向にあるものの、普通競輪（グレードFⅠまたはFⅡの開催）及びミッドナイト競輪の伸びにより、売上が増加しています。

ミッドナイト競輪は、開始した平成 26 年度は小倉競輪場を借上で6日間の開催でしたが、27 年度は借上6日に加えて玉野競輪場で 12 日開催し 18 日開催しました。28 年度には 24 日開催したことにより、売上が増加しています。

図 1-1 玉野競輪売上の推移（単位：億円）



平成 28 年度のGⅢは、記念競輪以外に国際トラック支援競輪を開催
(資料) 玉野市資料

表 1-1 玉野競輪の開催日数（単位：日）

	GⅢ	FⅠ	FⅡ(昼間)	FⅡ(ミッドナイト)	合計
平成 24	4	21	33	－	58
25	4	21	30	－	55
26	4	18	27	6	55
27	4	18	15	18	55
28	8	18	12	24	62

(資料) 玉野市資料

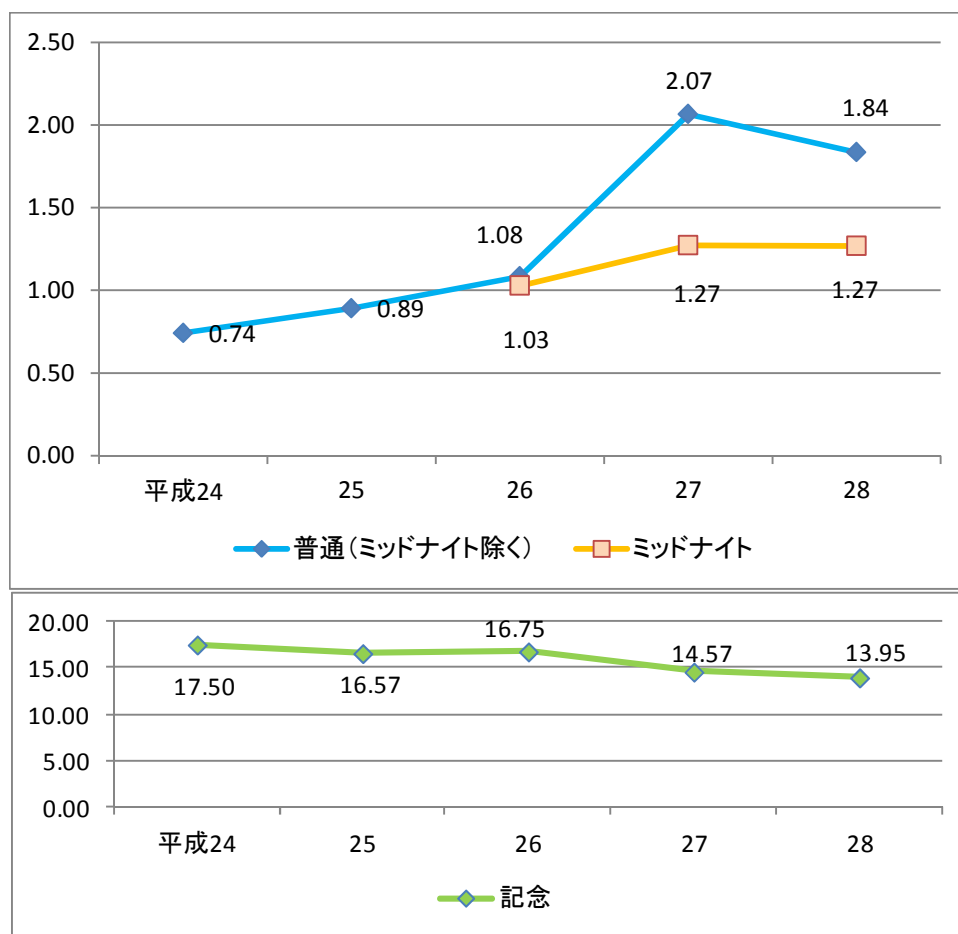
1日当たりの売上は、平成27年度以降大きく増加しています。競輪全体の開催日数の減少に伴い、開催時の場外発売による売上が増えた結果であると考えられます。

また、ミッドナイト競輪は売上が好調であり、年々増加傾向にあります。参入する競輪場(施行者)の増加により、今後は1日で2場開催することも想定されるため、1日当たりの売上は頭打ちになると想定されます。

なお、記念競輪の売上は年々減少傾向にあります。どの開催にも同じような選手が出場することで希少さ新鮮さが失われ、お客様の関心が高まらなくなったことなどにより、

玉野競輪では、平成28年度からナイター競輪を始めており、競合の激しい昼間開催よりも売上を伸ばしています。しかしながら、ナイター競輪も2場同時開催の体制となっており、発走時間の調整、場外発売の強化などによる売上向上策を引き続き実施していく必要があります。

図 1-2 1日当たり売上の推移(単位:億円)

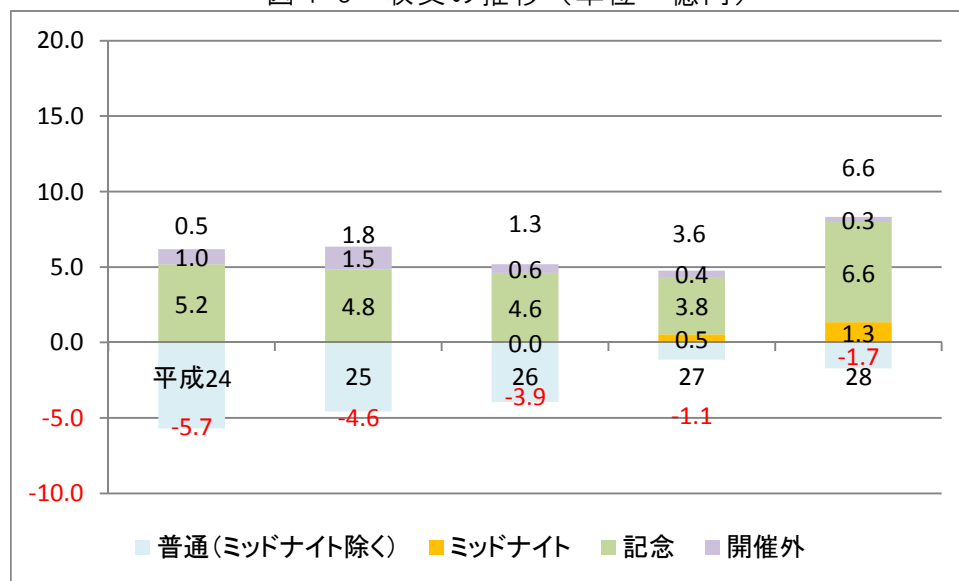


(資料) 玉野市資料

玉野競輪の収支は、平成 24 年度以降は黒字化し、黒字幅も年々増加しています。記念競輪の黒字幅は縮小傾向にありますが、普通競輪の開催日数が減少したことにより、赤字幅が大きく減少していることが、最も寄与しています。

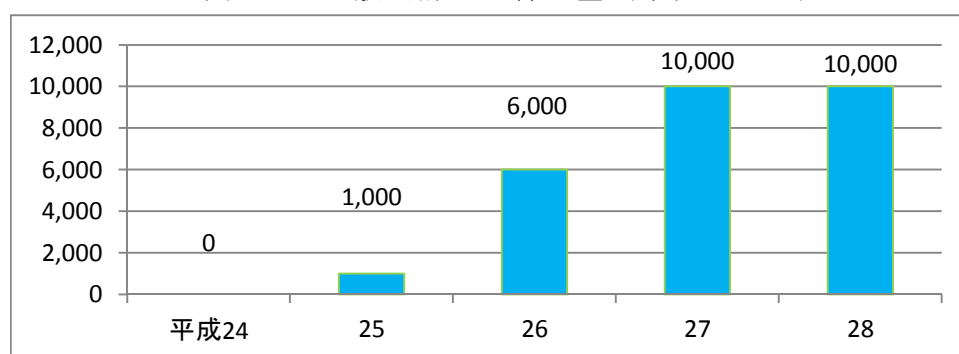
なお、一般会計への繰出も行われるようになり、金額も増加しています。また、平成 28 年度現在で、施設整備基金に約5億円、財政調整基金に約5億円、合計で約 10 億円の積み立てがあり、その一部は今後の施設整備等に活用していくことが考えられます。

図 1-3 収支の推移（単位：億円）



（資料）玉野市資料

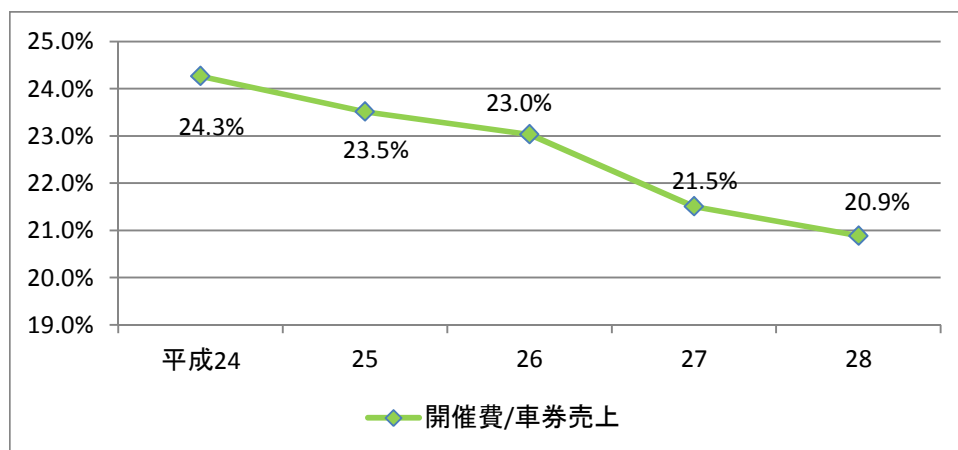
図 1-4 一般会計への繰出金（単位：万円）



（資料）玉野市資料

玉野競輪の開催費(開催経費のうち払戻金、JKA交付金を除いたもの)についてみると、平成 24 年度以降は車券売上に占める開催費の割合は減少しています。

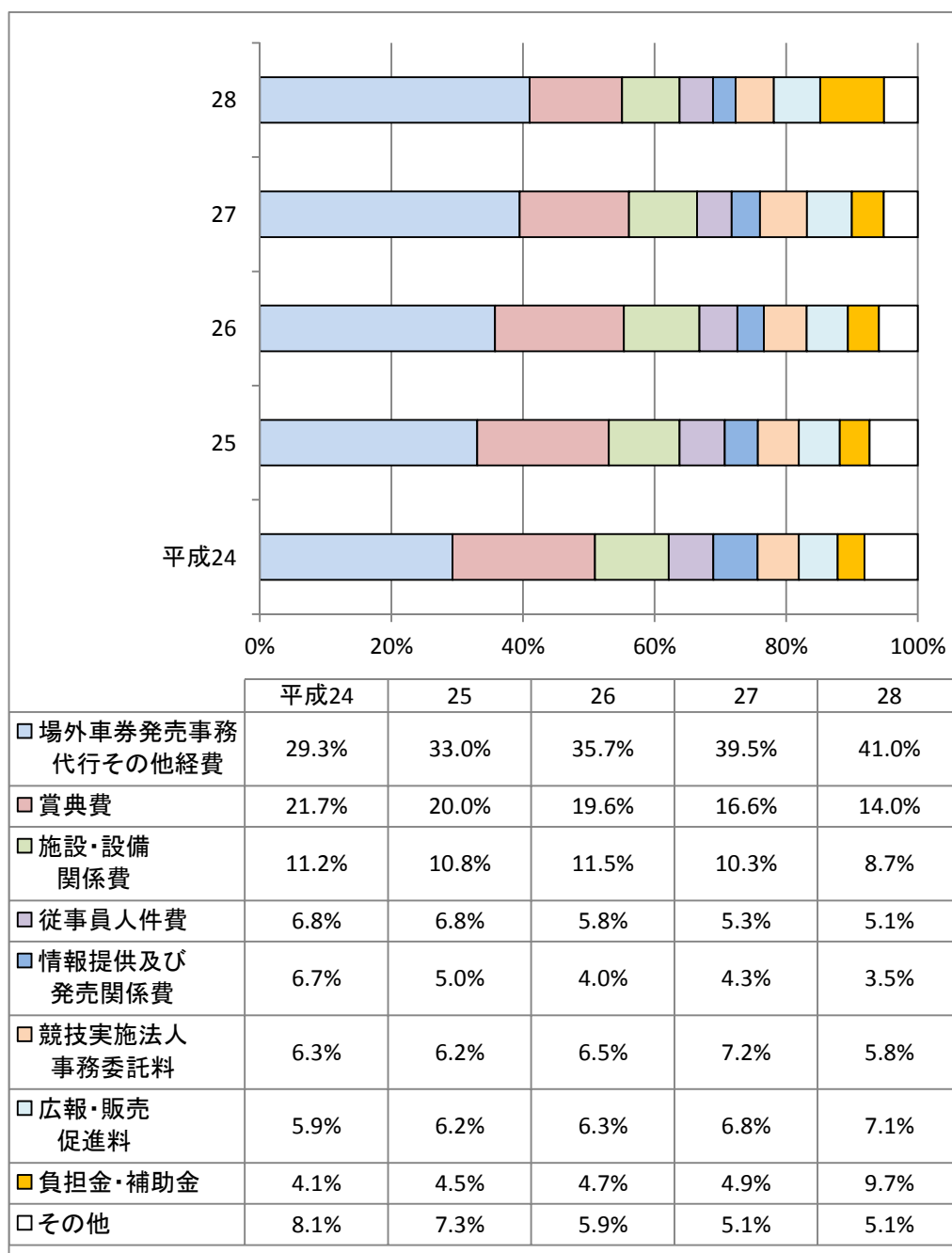
図 1-5 開催費割合の推移



(資料) 玉野市資料

開催費の内訳をみると、場外発売の増加にともない、「場外車券発売事務代行その他経費」の占める割合が上昇しており、平成 27 年度には開催費の4割を占めています。一方で、「賞典費」「施設・設備関係費」「情報提供及び発売関係費」「従事員人件費」の割合は減少傾向にあります。

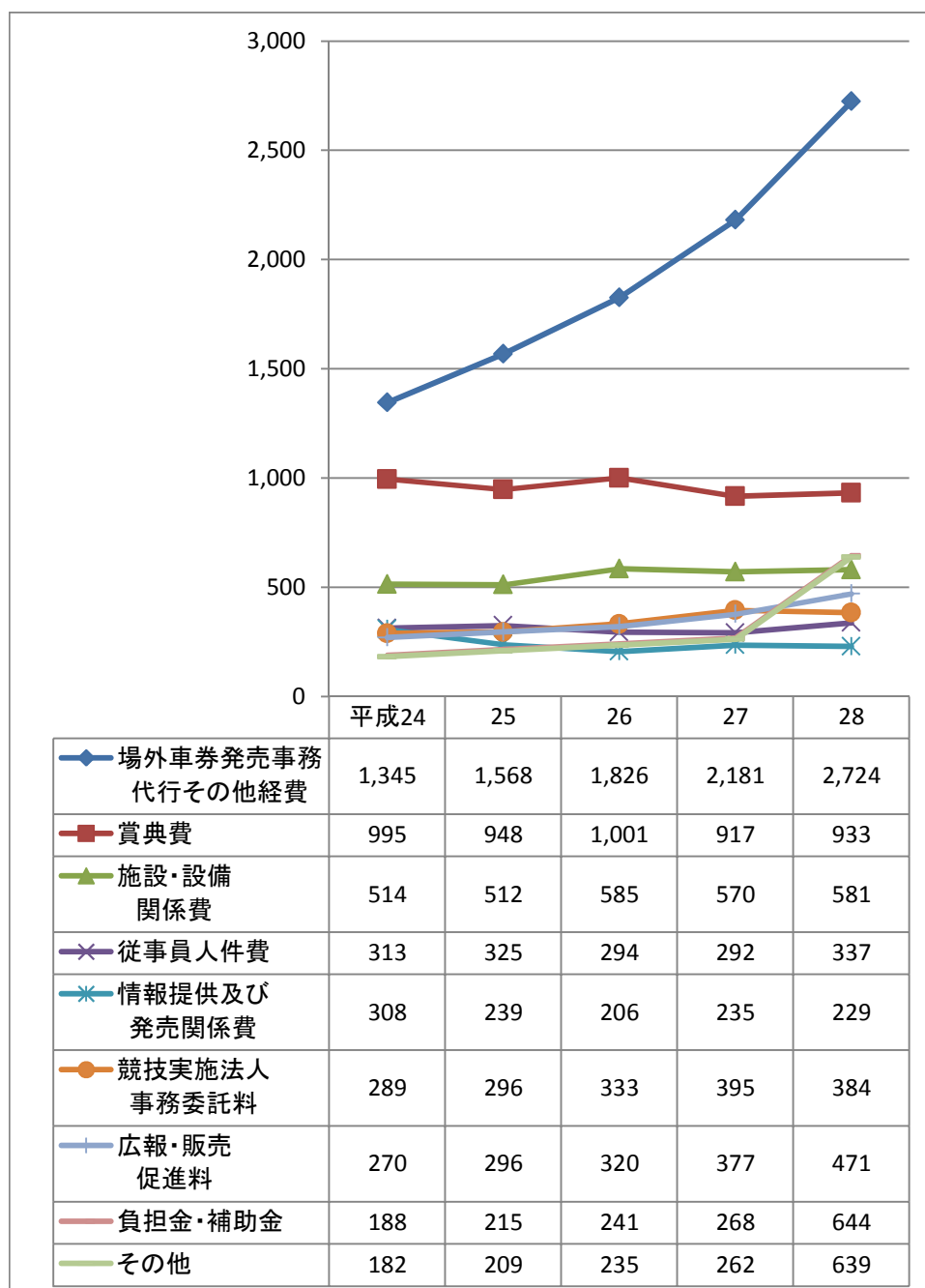
図 1-6 開催費の内訳



(資料) 玉野市資料

なお、1日あたり開催費を費目別にみると、いずれの経費も上昇傾向にあり、特に「場外車券発売事務代行その他経費」は大きく増加しています。これは、場外発売の大幅な増加によるものと考えられます。

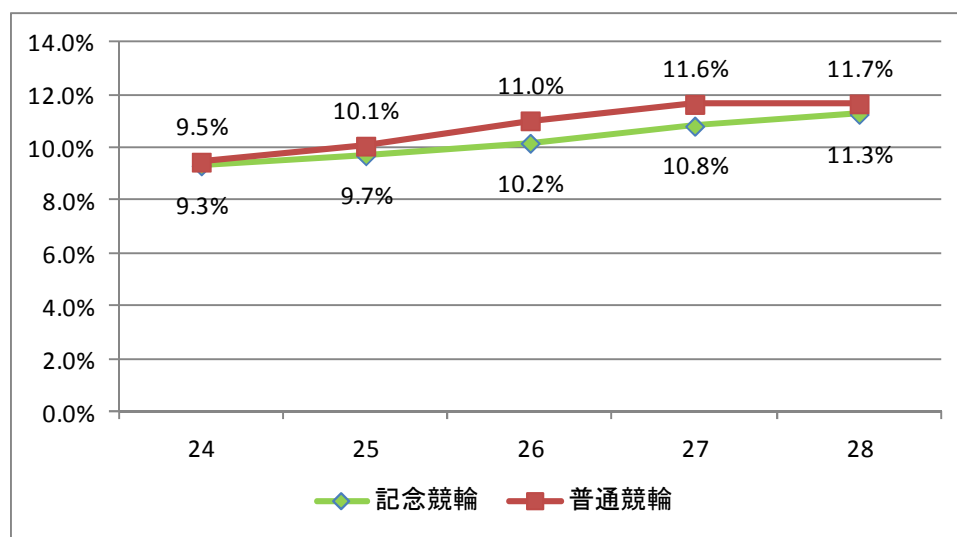
図 1-7 1日あたり費目別開催費（単位：万円）



（資料）玉野市資料

なお、場外車券発売事務代行その他経費を場外車券発売金額に占める割合をみると上昇傾向にありますが、急激なものではなく、場外車券発売額が大きく伸びているため、実際の金額も伸びていることがわかります。

図 1-8 場外車券発売事務代行その他経費の場外発売金額に占める割合



(資料) 玉野市資料

②チャンネル別・グレード別の売上状況

平成 28 年度において、1 日当たりのグレード別の入場者数について比較すると、本場開催では普通競輪では 1,000 名を下回っており、記念競輪時には 2,000 名程度となります。受託場外では、F I の場合はさらに少なくなることから、レース観覧・発売場所の集約化を検討する必要があります。なお、ナイトー競輪については、夕方以降の入場者数であるため、実際はより多いものと推測されます。

なお、最大となる入場者数は記念競輪開催時の 3,406 人であり、今後特別競輪を実施することも考えると収容人数 5,000 人を目安とした施設整備を行うことが考えられます。

1 日当たりの売上についてみると、グレードの高いレースほど売上が多い状況にあります。

表 1-2 平成 28 年度 1 日当たりの売上・入場者数（単位：円、人）

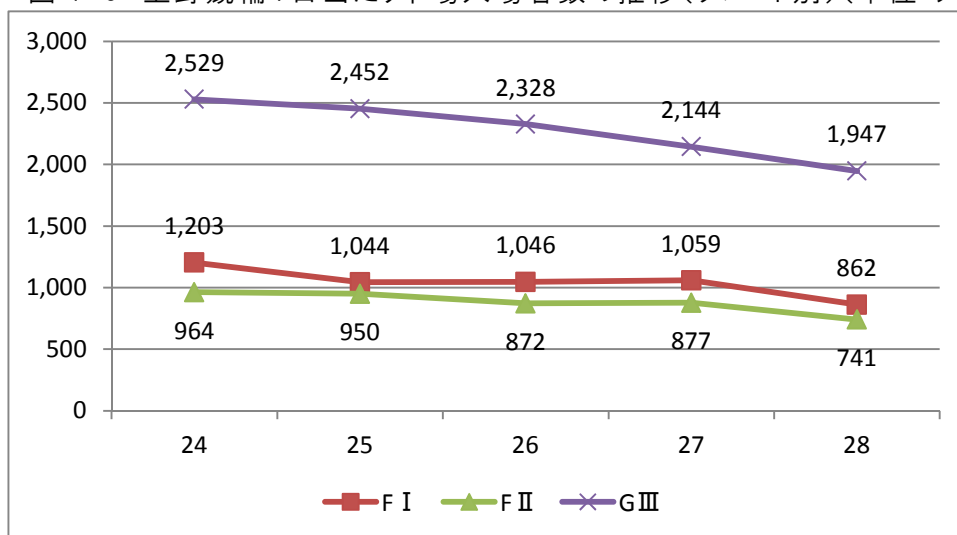
	入場者		売上	
本場開催	1 日平均	最高	1 日平均	客単価
F I 昼	862	1,299	9,919,827	11,505
F I 夜	503	508	9,622,833	19,144
F II 昼	741	1,294	4,261,333	5,753
G III 昼	1,947	3,406	25,383,150	13,038

	入場者		売上	
受託場外	1 日平均	最高	1 日平均	客単価
F I 昼	580	1,045	6,896,760	11,895
G III 昼	814	1,383	11,693,701	14,367
特別昼	1,077	2,514	17,227,321	15,996

特別には、G I、G II、GP、全プロが含まれる
（資料）玉野市資料

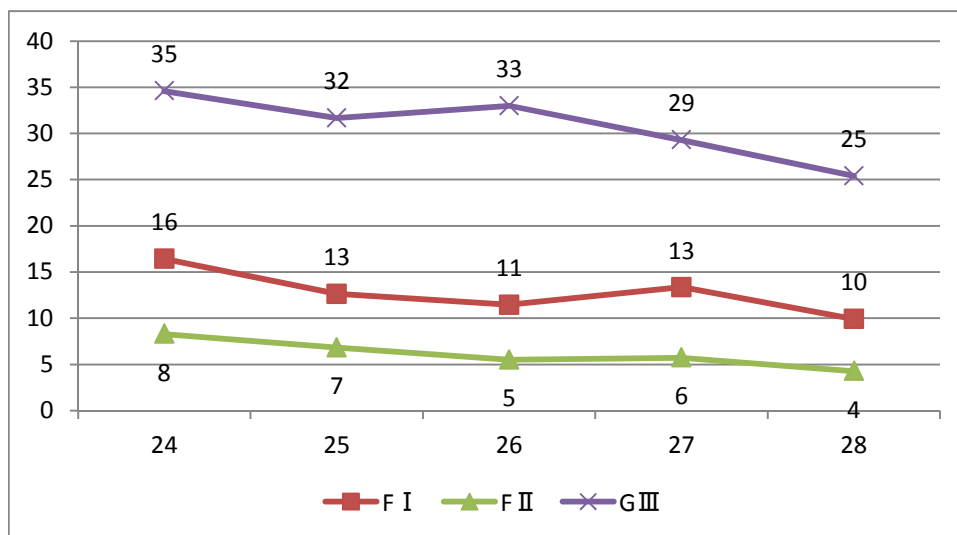
経年変化についてみると、1日当たりの本場入場者、本場売上ともにグレードにかかわらず減少傾向にあります。

図 1-9 玉野競輪1日当たり本場入場者数の推移(グレード別)(単位:人)



(資料) 玉野市資料

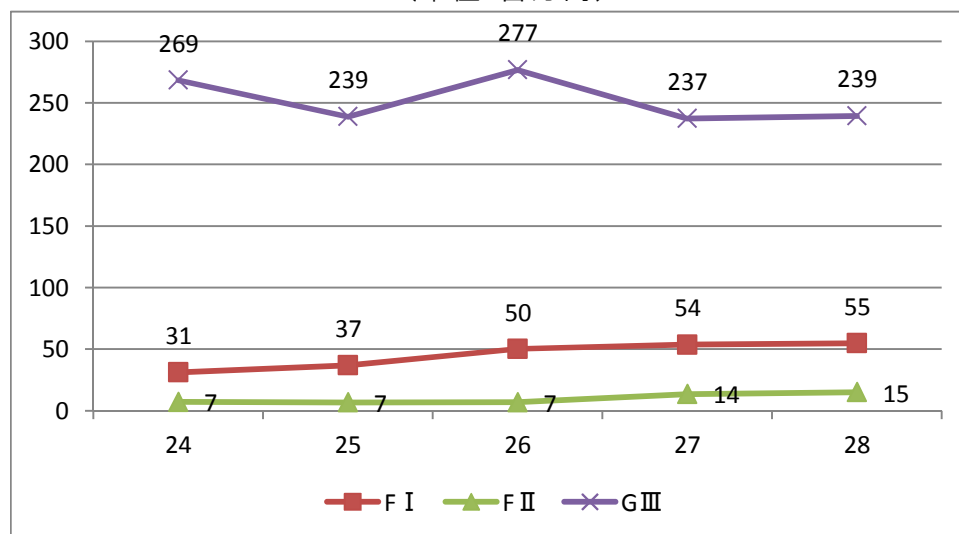
図 1-10 玉野競輪1日当たり本場売上の推移(グレード別)(単位:百万円)



(資料) 玉野市資料

1日当たりの電話・インターネット売上について経年変化をみると、GⅢについては横ばい傾向にありますが、FⅠについては平成26年度に上昇した後横ばい傾向に、FⅡについては平成27年度より2倍に増えてさらに上昇しています。これは、FⅠでは日程調整により競合開催が減少したこと、FⅡではミッドナイト競輪を開始したことによるものと考えられます。

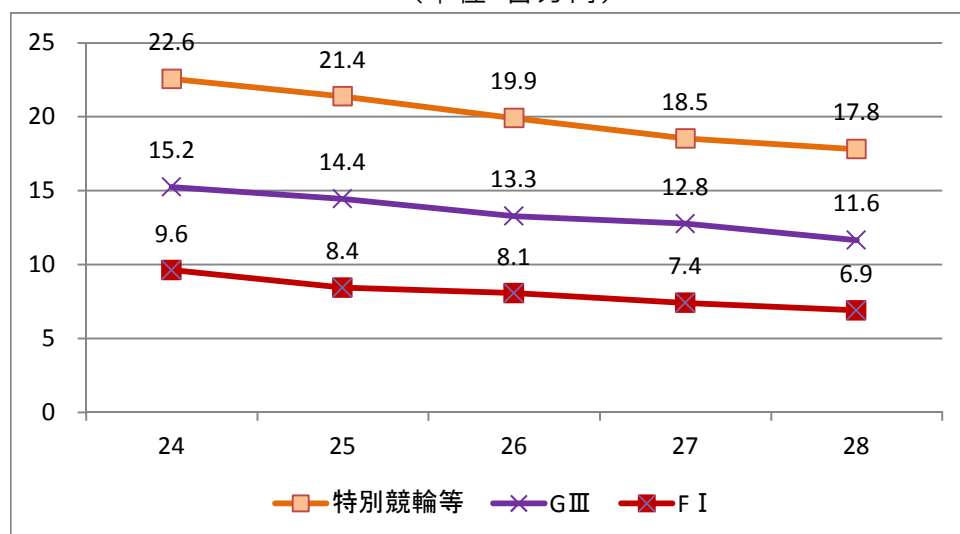
図 1-11 玉野競輪1日当たり電話・インターネット売上の推移(グレード別)
(単位:百万円)



(資料) 玉野市資料

場外受託売上の経年変化についてみると、1日当たりの売上はグレードにかかわらず減少傾向にあります。

図 1-12 玉野競輪1日当たり場外受託売上の推移(グレード別)
(単位:百万円)



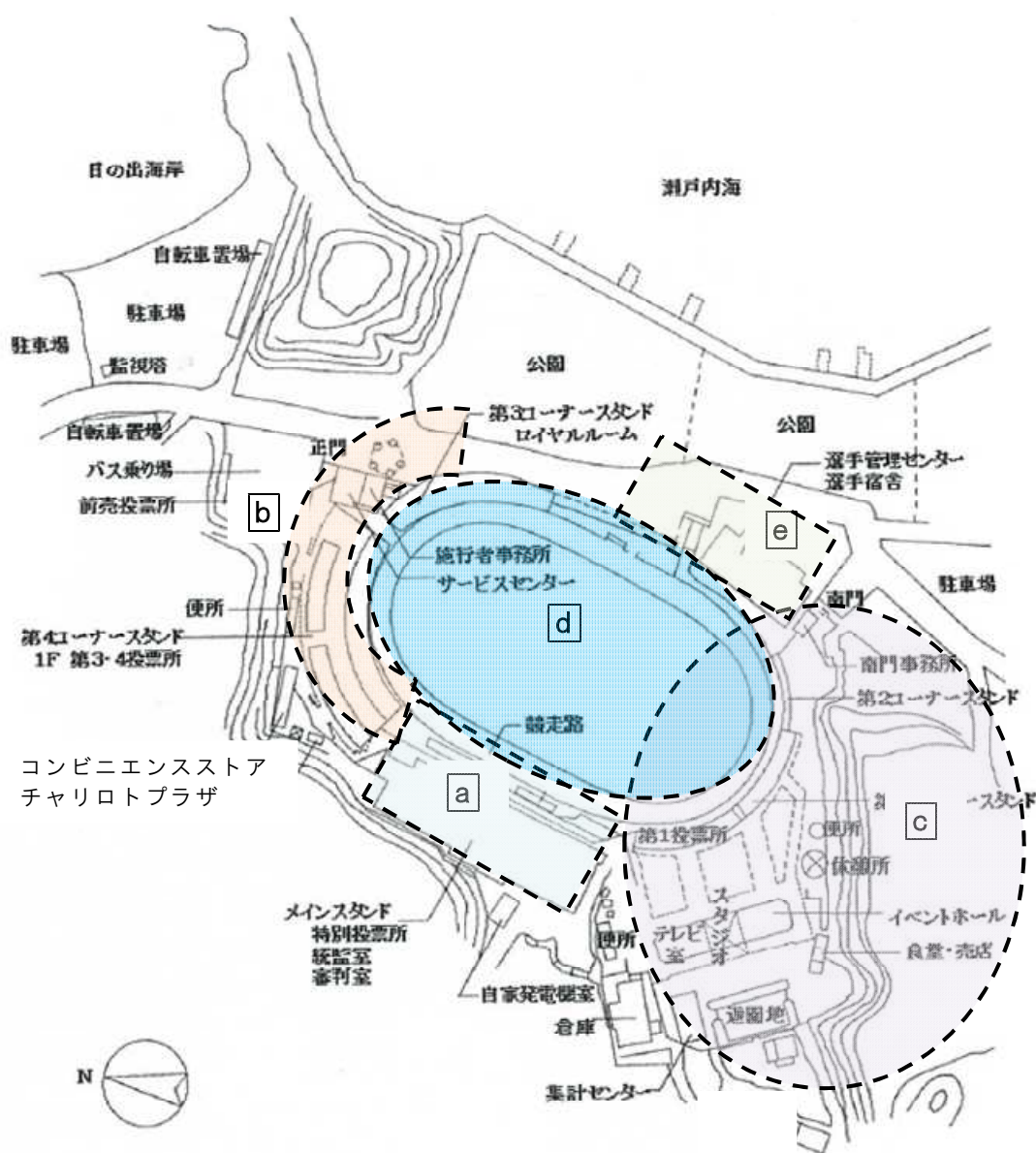
(資料) 玉野市資料

(2)施設に関する現状整理と課題の抽出

本項では玉野競輪場における施設に関する現状整理と今後の整備に関する諸条件について整理し、課題を抽出します。

図 1-13 玉野競輪場の配置

- | | |
|---------------------|--------------------|
| a. メインスタンド | b. 正門～第3・4コーナースタンド |
| c. 南門～第1・第2コーナースタンド | d. 競走路(バンク) |
| e. 選手宿舍及び管理棟 | |



(資料) 玉野市資料

①各施設の現状と課題

主要な施設ごとに現状と課題について整理していきます。

a. メインスタンド

メインスタンドは昭和 47 年に完成し、屋外無料席と屋内は指定席となっています。老朽化が著しいため、屋内指定席は記念競輪開催時のみ開放しています。そのため、開催時に屋内で観戦する場所は第1・2コーナースタンドとなります。

メインスタンドの3階には、本部関係、審判関係施設がありますが、エレベータがなく、関係者入口や通路も狭い状況にあります。

古い建物であるためバンク側に柱や窓枠が存在し、快適な観戦環境を提供することができない状況にあります。今後、ナイトー競輪の開催により、新たなお客様を招くためには、メイン観覧施設としての全面的な建て替えが望まれます。

b. 正門～第3・4コーナースタンド

バス乗り場、駐車場に隣接している入口であることから、多くのお客様がこのエリアを利用しています。利便性を高めるために、入場しなくても車券が購入できるような前売発売エリアを設けています。場外発売時には、第3・4コーナースタンドに多くのお客様が滞在していますが、スタンド下の空間でありゆとりがないこと、通常サイズのテレビモニタのみであることから、快適な観戦環境を提供しているとは言い難い状況にあります。また、来場者の減少にともない、前売発売エリアと第3・4コーナーの発売所を営業していることは効率的でないことから、発売エリアの統合を検討する必要があります。

スタンドや投票所自体が老朽化している(昭和 45 年築)ことも課題であり、このエリアに施設を新設することまたは大幅に改修することによりお客様の利便性を高める施設とすることが考えられます。

また、スタンド下の食堂・売店を改修して、チャリोटプラザとコンビニエンスストアが整備されており、軽食・飲み物等が購入できます。場内に入らなければ分かりにくい位置にあることから、競輪来場者以外での利用を促進するには、正門等での告知や場所の移転を検討する必要があります。

また、第3コーナー側にロイヤル席が整備されていますが、入場者数の減少に伴い、開放していません。この席は道路側に面しているため、再整備にあたっては、競輪以外の利用も踏まえた活用策を検討する必要があります。

c. 南門～第1・第2コーナースタンド

南門側に第4(第5)駐車場があることから、こちらの利用者が南門から入場し、第1・第2コーナースタンドを利用していると想定されます。スタンド上の室内は、投票所を改装し、空調完備の休憩所を兼ねた施設としています。ただし、正門から遠い位置にある

ため、利用者が集まっていない状況です。昭和 52 年築であり、老朽化が進んでいます。入場者数から考えると、通常は南門を閉鎖して、観覧スペースを集約化することが考えられます。

なお、屋外については、場内で最も広いオープンスペースがあり、旧投票所を改修してイベントホール、スタジオが整備されています。しかしながら、正門から遠い位置にあることから人がまばらであり、施設再整備において集約化する必要があります。

隣接して食堂がありますが、こちらについても、集約化の対象として検討する必要があります。

また、イベントホール、スタジオの南側には、倉庫と集計センターがありますが、南側は利用されていない空間となっています。有効活用を検討することが考えられます。

d. 競走路(バンク)

平成 15 年に全面改装を行っています。バンク内は人工芝となっており、景観が保たれています。なお、平成 28 年にミッドナイト競輪・ナイター競輪実施のために照明装置を整備しています。多目的に利用するという観点からは、バンク内フィールドの活用も検討していく必要があります。

e. 選手宿舎及び管理棟

昭和 44 年竣工であり老朽化しています。平成 4 年に大規模な改築をし、随時改修を続けています。1 階と 2 階を管理棟として使っています。

f. 駐車場

周辺に 2,225 台の駐車場を保有しており、来場者に対して十分な数を確保できています。それぞれの利用状況等は以下の通りです。

通常は、第 1 駐車場、第 2 駐車場、第 4 駐車場が利用されています。

○第 1 駐車場

100 台収容となっていますが、区画線の関係で 70 台程度の収容であり、ほとんど満車の状況にあります。

○第 2 駐車場

ナイター開催に対応するため、平成 28 年度に照明を設置しました。通常は半分程度の利用です。

○第 3 駐車場

正門側で入口から遠いため、従事員が駐車している程度で、ほぼ利用されていません。

○第 4 駐車場

南門から近いため、土、日はほぼ満車ですが、平日は空きもあります。

○第5駐車場

南門側で入口から遠い場所にあるため、半分以上利用されていることはありません。従事員が一部利用しています。

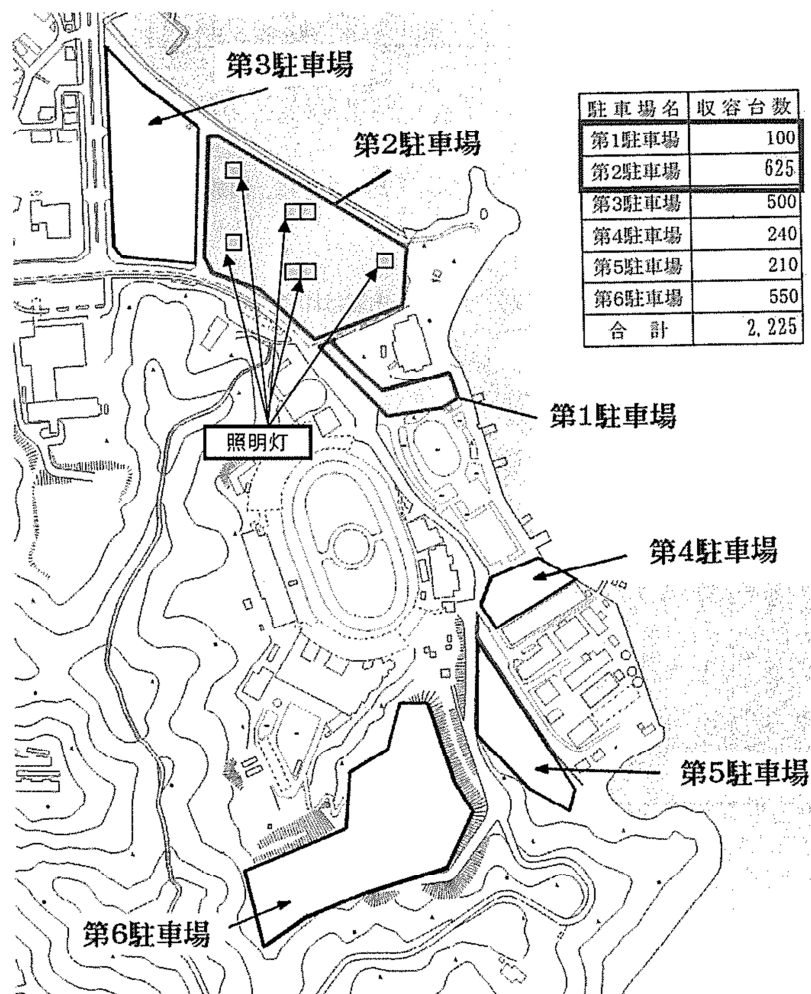
○第6駐車場

現在は、閉鎖しており、競輪以外のイベント等があるときに、開放して使用しています。

これらの状況から、第1・第2駐車場側に駐車場を集約し、通常は入口を1ヶ所にし、記念競輪等入場者が多い開催のみ南門を開けることが考えられます。

なお、第2駐車場はヘリポートの適地となっており、今後の競輪場の整備に関しては、大規模災害における物資集約拠点や避難所としての役割も検討していく必要があります。

図 1-14 駐車場の配置



(資料) 玉野市資料

②耐震性からみる課題

耐震診断は実施していませんが、メインスタンドをはじめとした建物は、新耐震基準以前の建物であり、耐震補強等が必要であると考えられます。耐震補強をしても、建物の耐用年数が延びるわけではないため、建て替えを含めた再整備を検討することが必要です。

③法規制

都市計画法では、市街化区域となっています。用途地区は商業地域となっています。建ぺい率は80%、容積率は400%であり、高さ制限はありません。工場以外であれば建設可能な地域であり、今後の整備において制限はありません。

なお、玉野競輪場の第6駐車場は、文化財保護法における埋蔵文化財包蔵地域となっており、工事には届け出が必要となり、事前の確認調査が必要となる場合があります。該当区域における整備を行う場合には確認調査等のスケジュールについて、関係部局との協議が必要です。

図 1-15 埋蔵文化財包蔵地域



(資料) 玉野市資料

(3) サービスに関する現状と課題

本項では、玉野競輪場におけるサービス等に関する現状と課題を整理し、今後の施設整備等に資する課題を抽出します。

① 場内観戦環境に関する状況

メインスタンドが老朽化しているため、屋内席を使っていない状況にあります。開催時に最適な観戦環境を提供するためには、バンクに面した側に屋内席を整備する必要があります。

玉野競輪場には映像ホールがなく、場外発売時には多くのお客様は第3・第4コーナースタンド下の発売所付近で観戦している状況にあります。平成28年度では場外発売が308日(併売を含む)であり、快適な映像観戦の場所を確保することが必要です。

なお、第1・第2コーナースタンド側にオープンスタジオが整備され、開催時には司会者、解説者による放送を行っています。しかしながら、お客様の少ない場所にあることから、今後の整備においては、正門～メインスタンド側に移転させることが必要です。

② 場内サービス施設に関する状況

第3・第4コーナースタンド側に、コンビニエンスストアが整備されており、軽食・飲み物等が購入できます。場内に入らなければ分かりにくい位置にあることから、競輪来場者以外での利用を促進するには、正門等での告知や場所の移転を検討する必要があります。食堂の位置も移転等により集約化する必要があります。

また、ナイトー競輪実施により、新たなお客様が増えることが想定されるため、初心者ガイダンスコーナー、婦人子供用休憩室、キッズルーム等の整備も必要です。

③ バス送迎に関する状況

平成28年度までは岡山駅からの有料バス(1往復)、宇野駅からの無料バスを運行していましたが、利用者が少ないことから見直しを行っています。

平成29年度からは、宇野駅からの無料ジャンボタクシーを運行しています。今後は、JR宇野みなと線、直島航路との接続をとるなど、利便性向上への検討が必要です。

(4)施設整備を進めるにあたっての課題整理

本項では、これまでの調査結果にもとづき、玉野競輪場の施設整備を行うにあたって留意すべき課題について整理します。

①今後の場内発売の見通しに対応した施設整備の必要性

平成 29 年度の予定では、本場開催(ミッドナイトを除く)はGⅢ4日(昼間)、FⅠ18日(うちナイター12日)、FⅡ12日(すべてナイター)です。今後も同様の開催を行うとすると、本場開催に関しては、ナイター競輪を中心として新たなお客様を呼び込むことのできる施設とすることが求められます。

新たなお客様に玉野競輪場へ足を運んでもらうためには、近隣のレジャー施設と同様の清潔で快適な環境整備が必要となります。

→メインスタンドを中心とした観覧施設のリニューアル

一方で、その他の約 300 日は場外発売を実施することになります。これまでの競輪場施設は開催を前提として施設が整備されており、映像観戦を快適にできる施設対応ができているところは多くありません。近年では映像ホールを整備した競輪場がいくつかみられますが、玉野競輪場においても場内のいずれかの場所に映像ホールを整備していく必要があります。また、入場者数の状況から前売発売所と一体となった施設整備を行うことで、集約化と効率化を図ることができます。ボートレースでは全場で外向発売所を整備し、場外発売は外向発売所に集約しています。これらの例を参考として、場外発売に対応した施設の整備が必要となります。

→正門付近における外向発売・映像ホールの整備

②観覧・発売施設の集約化

記念競輪以外では 1,000 名程度の入場者であることから、開催時においても正門からメインスタンドのエリアで、観覧・発売場所を集約化することが望まれます。南門から第1・第2コーナースタンドのエリアにあるスタジオ、サービス施設等に移転させ、集約化を図ることが考えられます。同じく、コンビニエンスストアは正門付近へ移設し、競輪場の外からも見えるようにし、より多くの人に利用してもらえるようにすることも考えられます。

→サービス施設等の正門付近へ移設

→駐車場利用の集約化

③管理施設のリニューアルの必要性

選手宿舎は築 50 年を迎えることとなり、耐用年数に近づいています。さまざまな改修が行われていますが、より快適な環境とするためには、全面的なリニューアルもスケジュール化しておく必要があります。

→選手宿舎・管理棟のリニューアル

④スペースの有効活用

観覧・発売施設の集約化によって、第1・第2コーナースタンド側に普段は利用しないスペースができることとなります。このスペースについては、地域のニーズ等を勘案して、将来的には、スポーツコート、集会施設等として活用することを考えます。

また、第3コーナースタンドのロイヤル席は現在活用されていませんが、外側に道路に面していることから、飲食施設と複合した観戦施設としてリニューアルすることを検討します。

→第1・第2コーナースタンド側スペースの有効活用

→第3コーナースタンドのリニューアル

2. 収支見通しの作成

収支見通しの作成につきましては、自転車競技法施行規則第 34 条による報告（以下、34 条報告と表記）をベースとして行っております。設定におきましては、34 条報告の金額に基づいておりますが、玉野市特別会計予算・決算との整合性をみた上で、市予算・決算の値を用いているものもあります。

（1）売上見通しの検討

収入については車券売上、受託発売収入、その他収入に分けて検討し、車券売上については、売上の半分以上を占める記念競輪、その他の普通開催に分けて検討します。

① 記念競輪

記念競輪については、平成 28 年度実績をもとに平成 24 年度～平成 28 年度の増加率（▲1.1％）で毎年推移するとして設定します。

② 普通競輪

普通競輪については、平成 29 年度にはFⅠ 18 日（昼間 6 日、ナイター 12 日）、FⅡ 12 日（すべてナイター）、FⅢ ミッドナイト 24 日の開催が予定されています。

場外発売や電話・インターネット投票の増加により普通競輪の売り上げが伸びていますが、平成 28 年度実績で横ばいに推移するものとして設定します。

③ 受託場外発売等による収入

場外受託発売額につきましては、平成 28 年度実績をもとに横ばいに推移するとして設定します。

ミッドナイト競輪施設賃貸料については、平成 28 年度（8 節開催）売上実績の 1.5％として設定し、平成 29 年度は 4 節開催として設定します。

④ その他収入

払戻時効金は、平成 28 年度実績の比率（0.2％）をもとに横ばいに推移するとして設定します。

その他の収入（売店賃貸料、入場料、その他）につきましては、平成 28 年度実績をもとに、横ばいに推移するものと設定します。

(2) 支出見通しの検討

支出については、開催にともなう支出(払戻金、修繕・備品に係る経費、その他経費)について検討します。

支出には、施設整備(建設)費、投票機器等の更新費は見込んでおりません。

①開催経費

的中したお客様への払戻金、JKA交付金等の車券売上に比例してかかる支出については、平成 27 年度の実績をもとに、それぞれを払戻金 74.7%(端数切捨金差引後の率)、JKA委託料 1.5%、JKA交付金 1.9%、全輪協分担金 1.0%に設定します。

開催にかかるその他の経費については一定であるとし、平成 27 年度の実績をもとに設定します。

また、場外発売関連経費については、平成 28 年度実績から場外発売売上の 14.7%であるとして設定します。なお、場外発売の割合は、平成 28 年度の実績より、昼間開催は 77.1%、ナイターは 56.5%、ミッドナイトは 49.8%と設定しています。

②開催以外にかかる支出

開催以外にかかる支出については、施設整備や修繕・備品等にかかる費用を見込みます。平成 29 年度予算額として、以降固定しています。

(3) 収支見通しの検討

(1)(2)の結果から、収支見通しを算出すると、約4億円の黒字となります。一般会計への繰出金を1億円として、残りを積み立てて施設整備に充てることが可能です。

競輪施設整備積立金は、平成 28 年度末で約5億円の残高があり、毎年2億円を積み立てると仮定すると、平成 34 年度末の残高は約 17 億円となります。

なお、繰越金(平成 27 年度決算で約4億円)については、収支見通しに算入しておりません。

収入		(単位:千円)											
費目	細目	積算根拠											
車券発売収入	普通開催	15,894,867	15,835,659	15,777,102	15,719,189	15,661,913	15,605,267	15,549,244	15,493,838	15,439,041	15,384,847	15,331,249	
	FI	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	10,512,293	
	FI	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	5,269,280	
	FI	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	
	ミッドナイト	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	3,043,013	
	記念競輪	5,382,574	5,323,366	5,264,809	5,206,896	5,149,620	5,092,974	5,036,951	4,981,545	4,926,748	4,872,554	4,818,956	
場外発売等収入	24～28年度の変化率	1.1%減											
	28年度実績で固定	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	128,413	
雑入等	28年度実績上開催売上の1.5%として4節として設定	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	104,308	
	28年度借上開催売上の1.5%として4節として設定	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	24,105	
収入合計(A)	雑入等	47,790	47,671	47,554	47,438	47,324	47,211	47,098	46,988	46,878	46,770	46,662	
	私展時効金	31,790	31,671	31,554	31,438	31,324	31,211	31,098	30,988	30,878	30,770	30,662	
収入合計(A)	その他	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	
	その他	16,071,070	16,011,743	15,953,069	15,895,041	15,837,650	15,780,891	15,724,756	15,669,239	15,614,332	15,560,030	15,506,324	
支出		(単位:千円)											
費目	細目	積算根拠											
総務費	28年度実績をもとに固定	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	72,299	
	開催費	15,627,019	15,573,154	15,519,882	15,467,196	15,415,089	15,363,556	15,312,590	15,262,184	15,212,332	15,163,029	15,114,269	
	私展金	11,889,361	11,845,073	11,801,272	11,757,953	11,715,111	11,672,740	11,630,835	11,589,391	11,548,403	11,507,865	11,467,774	
	場外開催委託費	1,566,649	1,559,677	1,552,782	1,545,963	1,539,219	1,532,549	1,525,953	1,519,429	1,512,977	1,506,596	1,500,285	
	経費率として設定												
	競技委託料	238,423	237,535	236,657	235,788	234,929	234,079	233,239	232,408	231,586	230,773	229,969	
その他開催費	車券売上の1.5%として設定	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	1,471,635	
	平成27年度実績より固定												
	車券売上の2.9%(JKAI.9%、全輪協を含む負担金・補助金1.0%)	460,951	459,234	457,536	455,856	454,195	452,553	450,928	449,321	447,732	446,161	444,606	
	交付金・負担金等												
維持修繕費	平成29年度予算をもとに固定	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	49,118	
	支出合計(B)	15,748,436	15,694,571	15,641,299	15,588,613	15,536,506	15,484,973	15,434,007	15,383,601	15,333,749	15,284,446	15,235,686	
収 支 (A - B)		322,634	317,172	311,770	306,428	301,144	295,918	290,750	285,638	280,583	275,584	270,639	

3. 施設整備方針の検討

(1) 施設整備コンセプトの検討

照明設備を整備したことで、ナイトー競輪を実施できるようになり、これまで競輪場に来場したことのない、新たなお客様を呼び込むきっかけができています。

また、海を隔てた直島がアートを活かした観光地として定着し、玄関口である宇野港にも多くの人々が訪れています。玉野競輪場のメインスタンドからは、瀬戸内海の島々を見ることができ、美しい夕焼けをみることができます。この資源を生かし、玉野競輪場を新たなレジャースポットとしての再整備を行うことが考えられます。

しかしながら、玉野競輪場の施設は築 40 年以上の施設であり老朽化が進んでいます。多くの人々が訪れ、快適に過ごすための、バリアフリー対応、サービス機能・施設等の対応は十分ではありません。また、歴史的な建造物でもないことから、保存して観光資源化することにはなじまないと考えられます。

競輪運営の側面からみると、本場入場者数が減少傾向にあるなかで、入場者数に見合った施設規模への集約が必要となっています。また、場外発売の日数が 300 日余りとほとんどを占めていること、複数場の場外発売やナイトー場外発売にも取り組むことなど、発売形態の変化に対応した施設の整備が必要です。

これらのことを考えると、老朽化した施設の撤去・更新を行うと同時に、サービス機能、運営機能等の集約を行い、コンパクトな運営を実現できる競輪場とすることを施設整備のコンセプトとします。

老朽化した施設の撤去により、確保できるゾーンについては、地域の活動に利用できるようなスペースとして開放できるような整備も検討します。

これらの施設整備により、お客様が利用しやすいような施設とするとともに、防災面へも配慮した施設とし、レジャースポットとしての競輪場再整備を検討します。

<施設整備のコンセプト(案)>

- 地域文化・観光交流の拠点となる競輪場(海とアートを感じる競輪場)
- お客様の快適な観戦環境を提供する競輪場
- 地域社会と共生した競輪場(市民交流拠点、防災拠点)

(2) 施設整備方針の検討

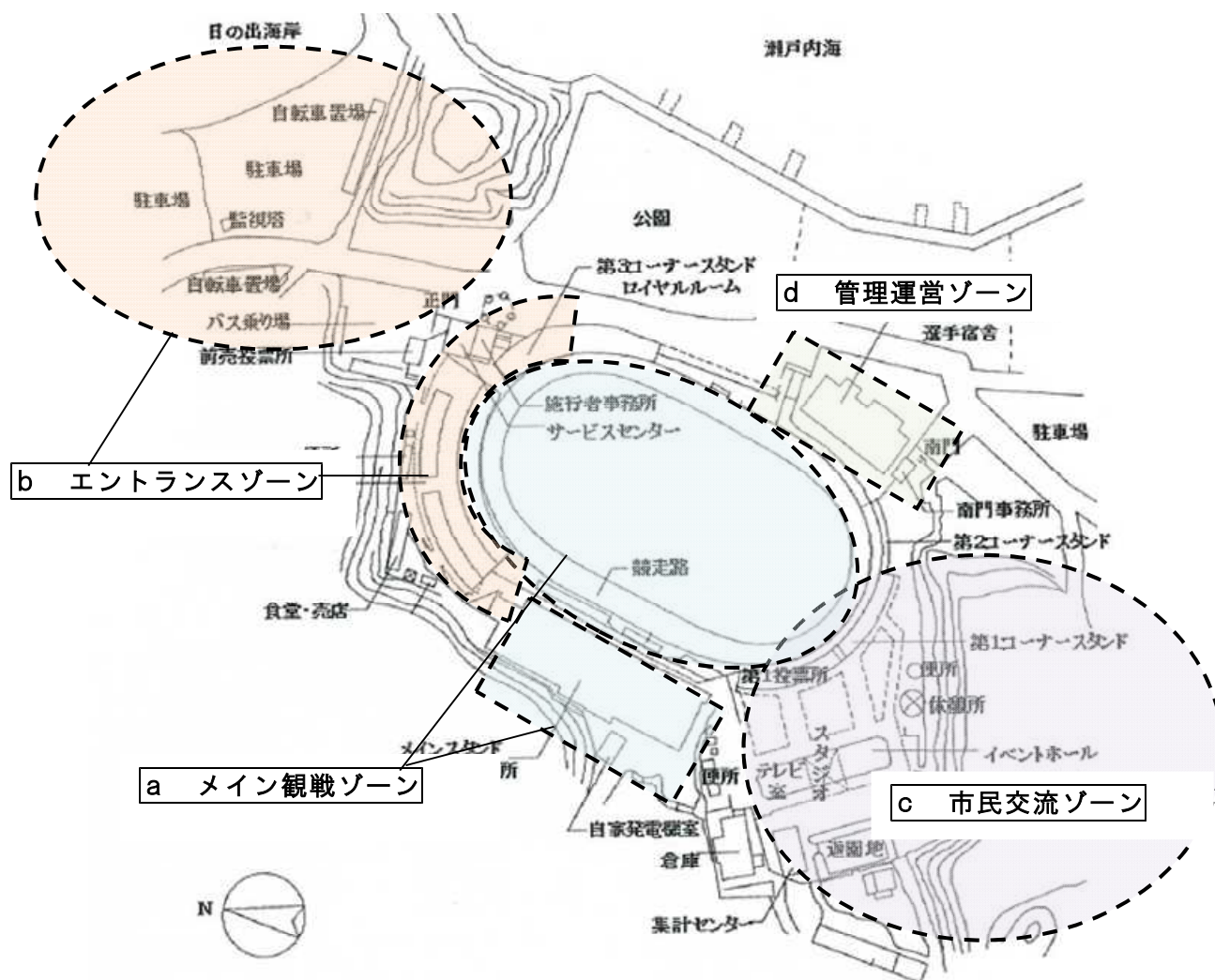
施設整備の方針として、ゾーニングについて検討するとともに、既存建物についての整備・活用の方向性について整理した後に、新たな建物の配置案を提示します。

①ゾーニング(案)

整備に関するゾーニングは以下を想定しています。

a. メイン観戦ゾーン
快適な観戦環境を確保するために、メインスタンドの整備を行います。
b. エントランスゾーン
場外発売時の観戦環境を確保するために、映像観戦、サービス機能を持つ施設整備を行います。
c. 市民交流ゾーン
市民活動にも利用できるように、オープンスペースを確保します。
d. 管理運営ゾーン
競輪運営を円滑に行うために、選手管理等機能を持つ施設を整備します。

図 3-1 ゾーニング (案)



②ゾーニング別施設整備の方向

玉野競輪場を4つのゾーンに分割し、それぞれについて施設整備の方向を示していきます。

a. メイン観戦ゾーン

メインスタンドが老朽化しており、近年の来場者数に見合った規模でコンパクトに建て替えることによって、レース観戦を楽しむためのエリアをつくります。開催時のお客様へのサービスは、このエリアでほとんどの機能を担うため、コンパクトな運営が可能となります。

メインスタンド内に、一般観覧席、特別観覧席、来賓席を設け、より快適な観戦環境を提供します。

表 3-1 メイン観戦ゾーン(主な機能と諸室)

【主な機能】	【諸室】
○観戦機能(レースの観戦) ○投票機能(車券の購入) ○情報発信機能 (レース及びその他の情報の提供) ○休憩機能(お客様が憩う) ○レース実施機能(レース実施)	○メインスタンド(新設) (一般観覧席、特別観覧席、来賓席、発売所、開催本部関係諸室) ○バンク

b. エントランスゾーン

場外発売時に最も多くのお客様が利用する第4コーナースタンドを改修し、日数が増加している場外発売時に利便性のよい環境を整備します。

第4コーナースタンド周辺の老朽化した施設を撤去するとともに、新設発売所を整備し、場外発売時に映像観戦ができるシアタールーム、イベントスペースを整備します。また、レストラン・売店、サービスセンター・初心者ガイダンス、スタジオ等、サービス関係の機能を集約していきます。また、集計センター、施行者事務所等もこの建屋内に移転させ集約します。

第3コーナースタンド(ロイヤル席)は、外向きの飲食施設を誘致し、改修することとします。

駐車場・駐輪場については、現状の場所を有効活用するとともに、第1駐車場の路面整備を行います。

表 3-2 エントランスゾーン(主な機能と施設)

【主な機能】	【施設】
○観戦機能(レースの観戦) ○投票機能(車券の購入) ○情報発信機能 (レース及びその他の情報の提供) ○休憩機能(お客様が憩う)	○新発売所(新設) (発売所、観覧スペース、レストラン・売店、チャリトプラザ、サービスセンター、ガイダンス等諸室、集計センター、施行者事務所) ○第3コーナースタンド(ロイヤル席)の改修
○エントランス機能 (お客様を出迎える)	○バス、タクシー停車スペース ○駐車場・駐輪場

c.市民交流ゾーン

第1・第2コーナー側の老朽化した施設を撤去し、地域住民に開かれたスペース(広場、各種レクリエーションスペース等)の整備を行います。

なお、第1・第2コーナースタンドは当面維持し、記念競輪等来場者数の多い開催時のみ活用することとします。地域文化・観光拠点としての機能を持たせるために、アート作品の誘致についても検討します。

表 3-3 コミュニティゾーン(主な機能と施設)

【主な機能】	【施設】
○市民交流機能 (地域住民との交流を図る機能)	○広場、レクリエーションスペース、トイレ

d.管理運営ゾーン

現在の宿舍及び選手管理諸室については老朽化していることから、取り壊して現地に新たな施設を整備します。

平成29年度に整備中のプレス棟については、記者室・スタジオ機能として活用します。

表 3-4 マネジメントゾーン(バックストレッチ側)(主な機能と諸室)

【主な機能】	【諸室】
○選手管理機能 (選手の競走への準備、待機) ○取材対応機能 ○地元選手スペース	○選手宿舍・選手管理諸室(検車場、選手控室、医務室)、トレーニング室 ○プレス棟(記者室)

③既存建物についての整備・活用の方向性

既存の建物をベースとした、整備・活用の方向性は以下の通りです。老朽化した施設を取り壊して集約化しながら、新しい建物を整備していきます。

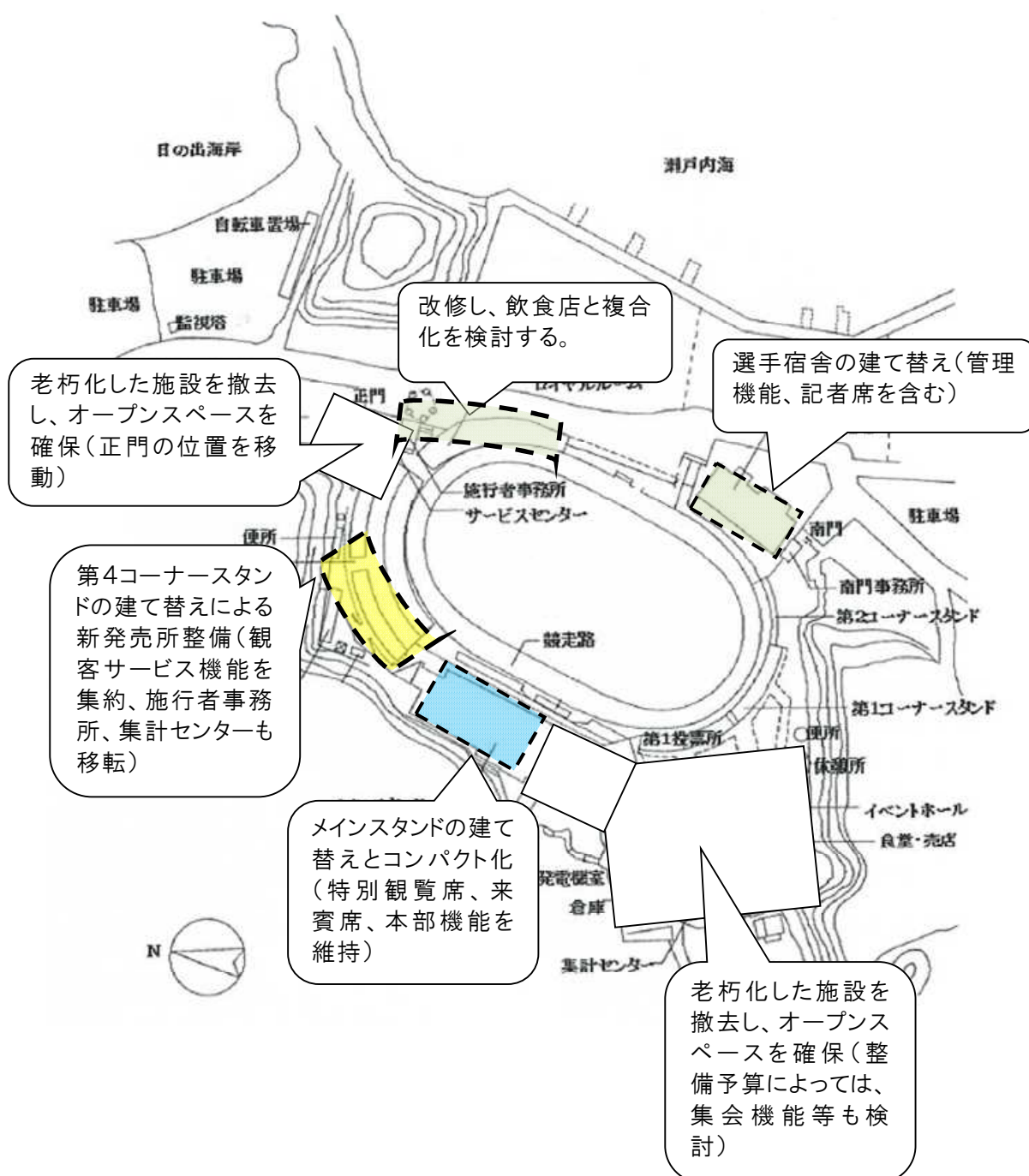
表 3-5 整備の方向性

エリア	建物等	整備の方向	整備時期
a. メイン観戦ゾーン	メインスタンド	取り壊して新たに整備 →現地建て替え	第2期
	競走路(バンク)	現状維持	
	照明設備	現状維持	
b. エントランスゾーン	第3コーナースタンド(ロイヤル席)	改修し飲食店と複合化する	第3期
	第4コーナースタンド(第3・第4投票所)	取り壊して新たに整備(新発売所)	第1期
	前売投票所	取り壊し→新発売所へ移転	
	コンビニエンスストア・チャリोटプラザ	取り壊し→新発売所へ移転	
	施行者事務所・サービスセンター(正門)	取り壊し→新発売所へ移転	
	第1駐車場	現状維持	
	第2駐車場	現状維持	
	第3駐車場	現状維持	
	第4駐車場	記念競輪以外は閉鎖	
	第5駐車場	現状維持	
	第6駐車場	記念競輪以外は閉鎖	
c. 市民交流ゾーン	第2コーナースタンド	現状維持(記念競輪以外は閉鎖)	
	第1コーナースタンド(第1投票所)	現状維持(記念競輪以外は閉鎖)	
	倉庫	現状維持	
	イベントホール・スタジオ	取り壊し→新発売所、プレス棟へ移転	
	集計センター	取り壊し→新発売所へ移転	
d. 管理運営ゾーン	選手宿舎	取り壊して新たに整備→現地建て替え	第3期
	プレス棟	(平成 29 年度整備中)	

④配置イメージ

新しい建物の配置イメージは以下の通りです。建物を「メインスタンド」「新発売所」の2つに集約し、第1・第2コーナー側の老朽化した建物を撤去して、オープンスペースを確保します。

図 3-2 配置イメージ



4. 施設整備計画の策定

本章では、玉野競輪場における具体的な施設整備計画について、整備を行う個別の施設の概要、想定スケジュールと事業費について検討します。

(1) 必要となる施設整備の検討

必要となる施設整備について、施設ごとに内容を検討します。特に、新発売所、メインスタンド、選手宿舍の整備については、具体的に検討します。

改修する施設については、以下のものを予定しており、以降詳細な内容を示していきます。

- ①新発売所の整備
- ②メインスタンドの整備
- ③選手宿舍の整備
- ④第3コーナースタンド(ロイヤル席)の改修
- ⑤第1・第2コーナーエリアの整備

①新発売所の整備

お客様は本場開催時・場外発売時ともに、第4コーナ下の発売所を多く利用していますが、十分な空間が確保されていません。また、モニタの数は十分に設置されていますが、散在しており、快適な観戦環境とは言い難い状況です。

現状では、サービスセンター、コンビニエンスストア、食堂、チャリोटプラザ、イベントスペースなど、サービス関連の施設が場内に散在しており、利便性向上のためには集約化する必要があります。

なお、集計センター、施行者事務所も老朽化しており、再整備が必要ですが、メインスタンドに近い位置に集約化して、業務の効率化を図ることも必要です。

第4コーナスタンド自体が老朽化していることから、一旦取り壊し、映像によるレース観戦、車券購入ができ、イベントスペース、サービスセンター、フードコート、コンビニエンスストア、ガイダンス等の付帯施設を集約し、集計センターや施行者事務所等の管理運営機能を持つ新発売所を整備します。

この発売所を場外発売時において、お客様が滞留するエリアとして位置づけるとともに、早朝前売発売所についても集約化します。なお、本施設内ではナイターを含めた併売を想定し、モニタ等を設置、快適な環境を提供します。

既存のサービスセンター、イベントスペース、食堂、コンビニエンスストア、チャリोटプラザについては、新設発売所内に集約することとします。

表 4-1 新発売所整備内容

【発売・観戦】	
発売所	自動発払機による発売・払戻
大型モニタ	場外発売時にも迫力ある映像を提供する
シアタールーム	お客様が快適に観戦できるような空間とする
【サービス】	
イベントスペース	イベントを実施するためのスペース
サービスセンター	競輪場内の案内所、お客様の病気・けがへの対応
初心者ガイダンス	初心者ガイダンス・情報提供を行う
チャリोटプラザ	チャリोट会員へのサービスを行う
子供連れコーナー	親子でのお客様にゆっくりいただくスペース
フードコート	食事の提供によりお客様の利便性を図る
コンビニエンスストア	飲食物や日用品の提供によりお客様の利便性を図る
トイレ	男女別、多目的トイレの設置（バリアフリー対応）
【管理・運営】	
施行者事務所	執務スペース、会議スペースを確保し円滑な運営に資する
集計センター	集計センターを移転整備し円滑な運営に資する

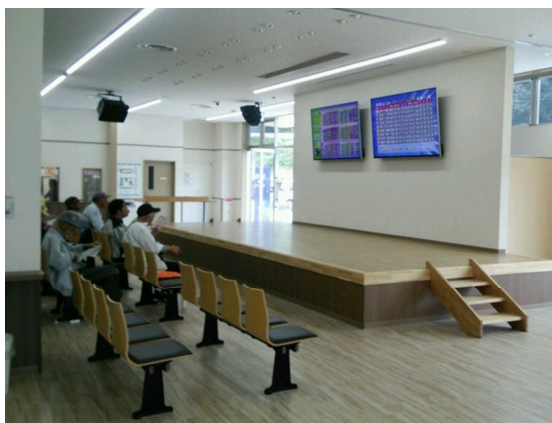
表 4-2 新発売所配置イメージ

	配置する諸室
1階	<バンク側> サービスセンター、コンビニエンスストア キッズコーナー・救護室 <正門側> 大型モニタ、シアタールーム イベントスペース <メインスタンド側> チャリロトプラザ、初心者ガイダンス
2階	フードコート (現在の路面の高さを生かし、オープンデッキも検討) 施行者事務所、集計センター

図 4-1 新設発売所内のイメージ

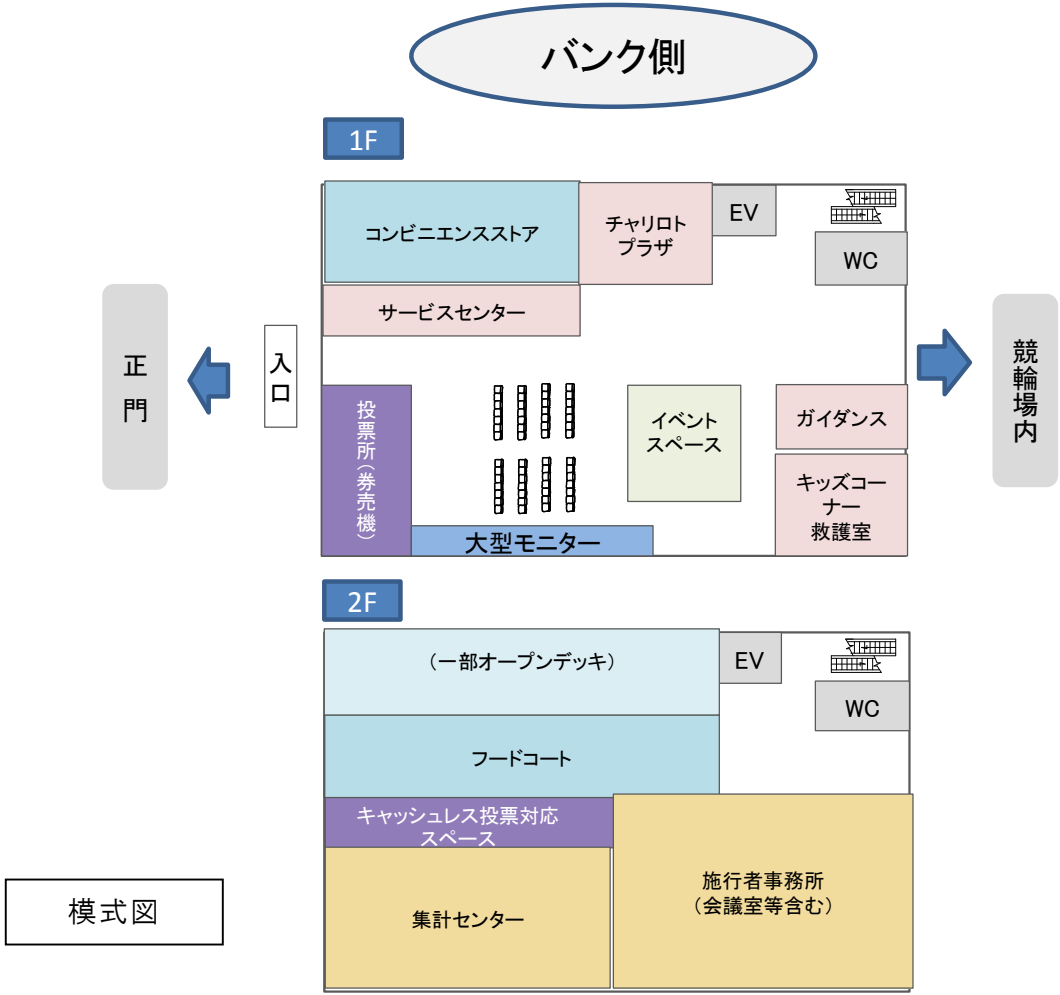
<イベントホール>

<フードコート>



(資料) 武雄競輪、飯塚オートレース

図 4-2 新設発売所整備イメージ



②メインスタンドの整備

メインスタンドは昭和 47 年に完成し老朽化が著しいため、屋内指定席は記念競輪開催時のみ開放しています。古い建物であるためバンク側に柱や窓枠が存在し、快適な観戦環境を提供することができない状況にあります。ナイター競輪時には、第4コーナースタンド下で投票し、レース時にメインスタンドに移って観戦している状況にあります。

また、メインスタンドの3階には、本部関係、審判関係施設がありますが、エレベータがなく、関係者入口や通路も狭い状況にあります。

新たなお客様を招くために、メイン観覧施設として建替を行うこととします。

なお、メインスタンド2階相当部分は、バンク側より高くなっていることから、バリアフリー対応のためにはスロープまたはエレベータの設置が必要です。

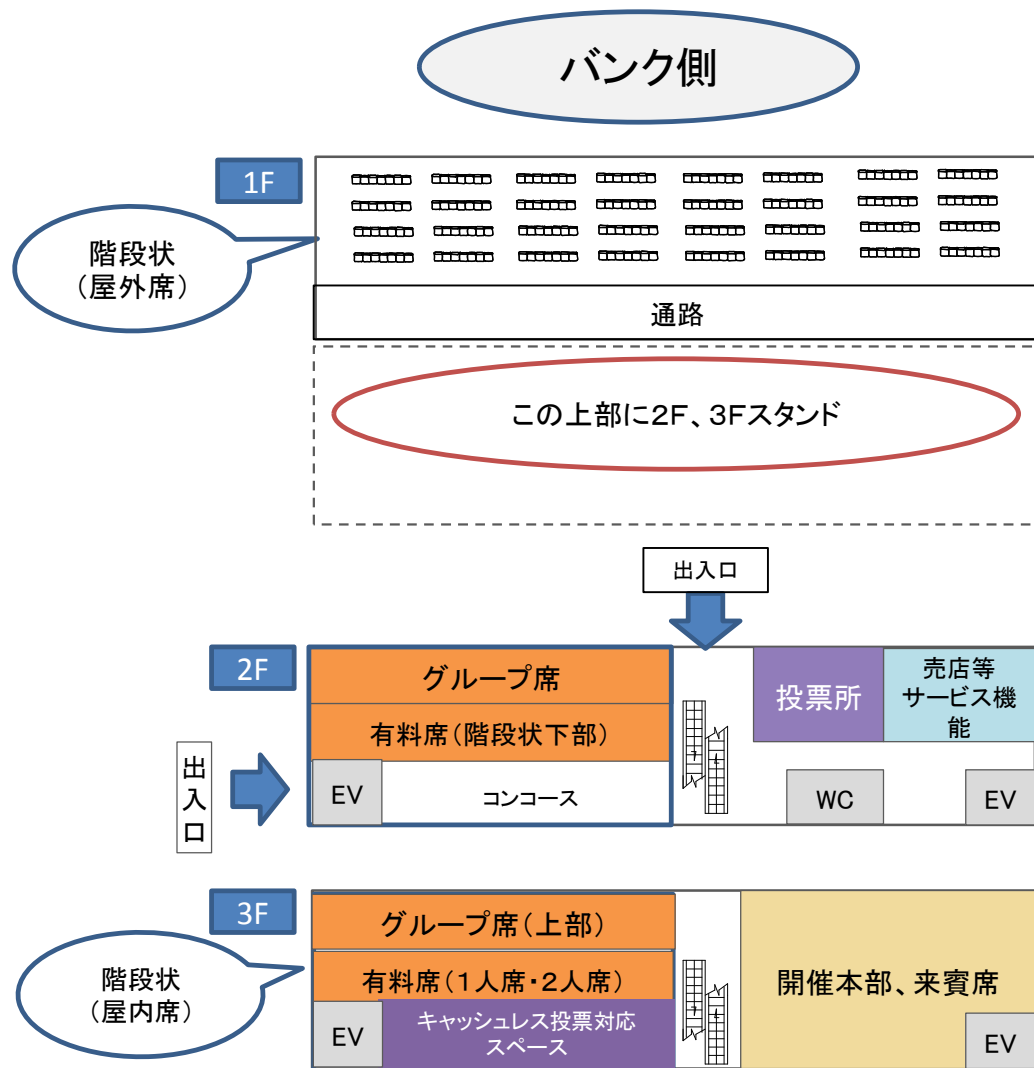
表 4-3 メインスタンド整備内容

【発売・観戦】	
1F屋外席	屋外観覧席の幅を縮めてコンパクト化する(300 席)
2F・3F 有料指定席	座席数を減らして有料指定席を設ける(合計 100 席) 一部をグループ席とする(キャッシュレス投票を導入する)
投票所	屋内席、屋外席に対応した設置を行う
【サービス】	
飲食売店	軽飲食売店を設置し利用者の利便性を図る
サービス機能	スペースの有効活用により利用者の利便性を図る (クローク、休憩所等)
トイレ	男女別、多目的トイレの設置(バリアフリー対応)
エレベータ等	バリアフリー対応
【管理・運営】	
開催本部	開催執務委員長室、競技委員長室、審判室、写真室等の諸室
来賓室	特別競輪等が開催できるようなスペースを確保する
エレベータ	管理運営対応

表 4-4 メインスタンド配置イメージ

	配置する諸室 (2階、3階は第4コーナー側A, 第1コーナー側Bに分かれる)
1階	屋外席(階段状)
2階	A 屋内指定席(1人席・2人席、グループ席) A 管理室:従業員(警備・清掃等)控室、機械室、倉庫等の用途 B 投票所、飲食売店、トイレ
3階	A キャッシュレス対応投票所 B 開催本部(開催執務委員長室、競技委員長室、審判室、写真室等の諸室)、来賓室

図 4-3 メインスタンド配置イメージ(平面：上から見たイメージ)



＜グループ席イメージ＞

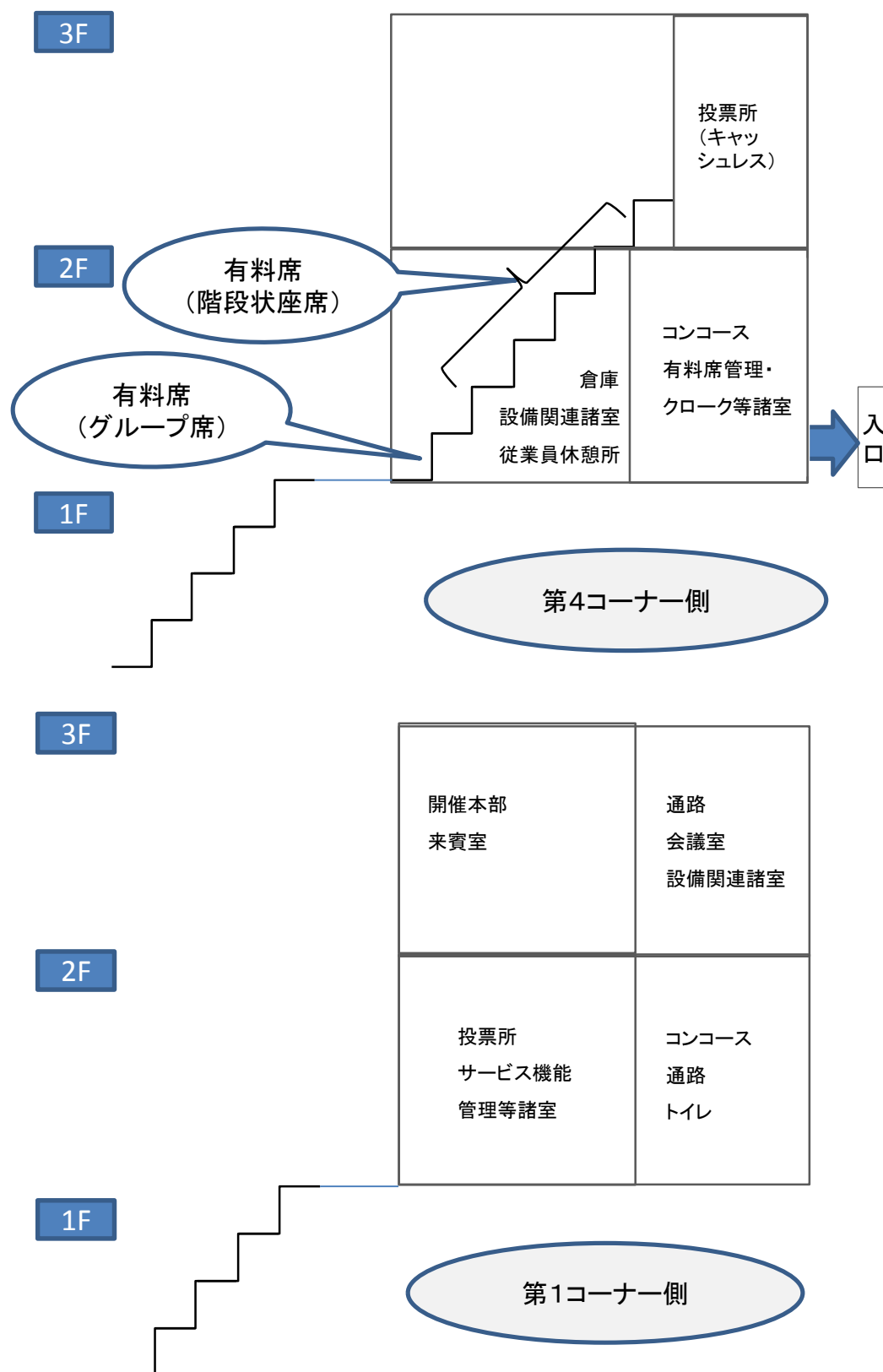


＜キャッシュレス対応スペースイメージ＞



(資料) 静岡競輪、浜松オートレース

図 4-4 メインスタンド配置イメージ（立面：横から見たイメージ）



③選手宿舎・選手管理棟の整備

選手宿舎は昭和 44 年に整備され、平成4年に改修しているものの、築 50 年に近づいており、各所での改修が必要となり、維持費が継続してかかることが見込まれます。そのため、メインスタンドを新装したのちに、現状の宿舎を取り壊して、新たに建築することとします。なお、工事期間中は市内の関係団体の宿泊施設を宿舎として活用し開催を続けることとします。

現状の施設は居室 33 室で最大 119 名収容ですが、今後は、収容能力を5日制や6日制のG I 開催に対応できる収容能力を持つことのできる宿舎を整備します。現状の出場選手数は、日本選手権 162 名、オールスター135 名であり、従来通り4人で1室とすると、 $162 \div 4 = 41$ 室、予備を考慮して 42 室(168 名収容)を確保することとします。

他場の実績等を勘案して、宿泊部分の1人当たりの面積を 7.5 m^2 (玉野は 7.0 m^2) と設定すると、 $7.5 \times 168 = 1,260 \text{ m}^2$ が必要面積となります。

その他諸室は、他場の実績から宿泊部分の概ね2倍であることから、必要となる延床面積は $1,260 \times 3 = 3,780 \text{ m}^2$ となります。

また、選手管理諸室は、現状通りとして、約 $1,100 \text{ m}^2$ です。

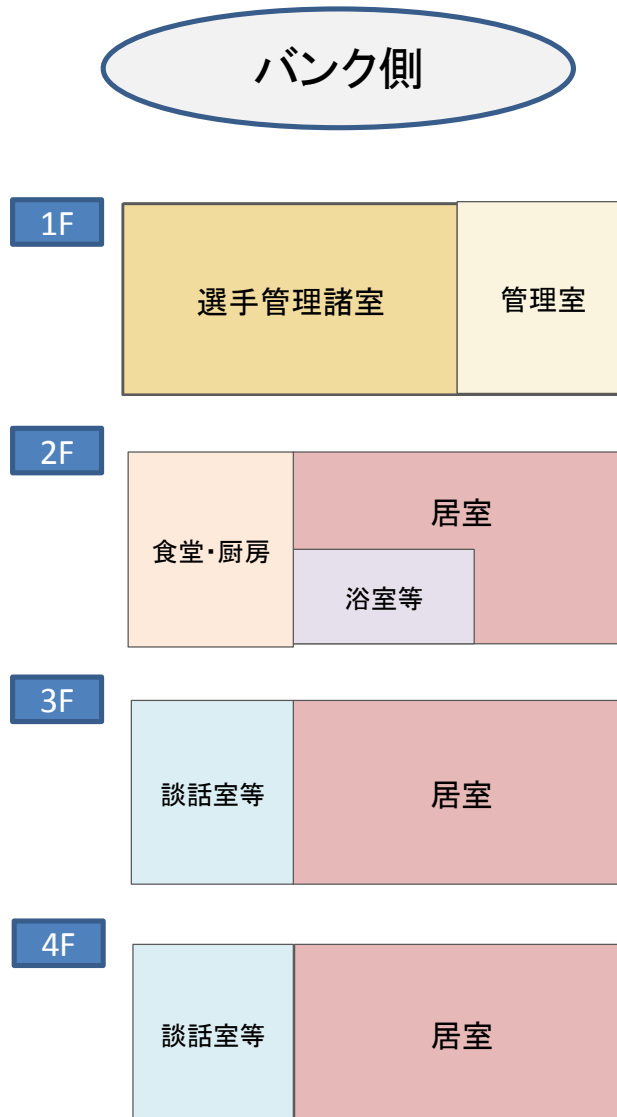
これらを合わせると、約 $5,000 \text{ m}^2$ が想定されます。

実際には、形状や共有スペース等の取り方により、変化します。

表 4-5 選手宿舎・選手管理棟整備内容

	配置する諸室
1階	選手管理棟諸室： 管理室：事務所、売店、応接室、宿直室、機械室、倉庫等の用途
2階	居室 12 室 浴室(男女別)、洗濯室、トイレ、食堂、厨房
3階	居室 15 室 洗濯室、トイレ 談話室：談話室、会議室、マッサージ室 等の用途
4階	居室 15 室 洗濯室、トイレ 談話室：談話室、会議室、マッサージ室 等の用途

図 4-5 選手宿舎・選手管理棟配置イメージ



④第 3 コーナースタンド(ロイヤル席)の改修

ロイヤル席については、開催時間外も営業できる条件で飲食店を誘致し、事業者と相談の上で改修内容を検討します。スポーツバーのように、映像観戦しながら、飲食を楽しむことのできる内容が想定されます。

整備時期としては、メインスタンドの整備が終わった後を想定しますが、早期に誘致できた場合には繰り上げて整備を行います。

⑤第 1・第 2 コーナーエリアの整備

メインスタンドの整備が終わった後に、本エリアの整備を行います。広場、各種レクリエーションスペース等を整備し、トイレを改修することにより、地域住民に開かれたスペースとして活用できるようにしていきます。

表 4-6 南側エリアの整備内容

イベントスペース・広場	地域に開かれたスペースとする (レクリエーション、スポーツ、フリーマーケット等の会場 として利用)
トイレ	改修

(2) 想定事業費とスケジュールの検討

想定する施設規模と概算事業費は、以下のとおりです。
建築単価は類似施設等を参考にして設定しています。

< 想定事業費 >

① 新発売所の整備

$1,800 \text{ m}^2 \times 25 \text{ 万円 (S造)} / \text{m}^2 = 4.5 \text{ 億円}$

$2,000 \text{ m}^2 \times 5 \text{ 万円 (解体・外構費)} / \text{m}^2 = 1 \text{ 億円 (周辺含む)}$

② メインスタンドの整備

$2,800 \text{ m}^2 \times 42 \text{ 万円 (SRC造)} / \text{m}^2 = 12.0 \text{ 億円}$

$2,000 \text{ m}^2 \times 2.5 \text{ 万円 (解体費)} / \text{m}^2 = 0.5 \text{ 億円}$

武雄のスタンド延床面積 $2,553 \text{ m}^2$ と同等程度と想定します。

③ 選手宿舎の整備

$3,600 \text{ m}^2 \times 30 \text{ 万円 (SRC造)} / \text{m}^2 = 11 \text{ 億円}$

$5,000 \text{ m}^2 \times 2.5 \text{ 万円 (解体費)} / \text{m}^2 = 1 \text{ 億円 (周辺含む)}$

④ 第3コーナースタンド(ロイヤル席)の改修

$400 \text{ m}^2 \times 15 \text{ 万円} / \text{m}^2 \text{ (内装)} = 0.5 \text{ 億円}$

⑤ 第1・第2コーナーエリアの整備

$5,000 \text{ m}^2 \times 5 \text{ 万円 (解体・外構)} / \text{m}^2 = 2.5 \text{ 億円}$

⑥ バンク改修

4億円

< スケジュール >

今後、基金残高や競輪業界の動向を注視しつつ、収益の確保や従事員の雇用維持に努めながら、適切な改修時期を見極め、具体的な実施計画を段階的に検討していきます。